

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0781
施設名	鹿骨おひさま保育園
施設所在地	東京都江戸川区鹿骨2-23-1
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【2歳児りす組・うさぎ組】

木

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然豊かな環境にある登園は日々、散歩や戸外遊びで自然に触れている為「木」はとても身近な存在。その木に興味を深め木で出来ている物・玩具に発展していく中で、子ども達が主体的に遊びを進めていけると考えた。木について興味を深め、遊びを発展させたい。

2. 活動スケジュール

4月 戸外で自然に触れ「木」に関心を持つ。木で出来ている身近な物や玩具に気付く。
10月 木の実・落ち葉・木登り等木に触れる。カプラ導入・熟年者交流会で体験する。
12月 子ども達へヒントや共有する楽しさを伝えられる様、カプラ園内研修を実施する。
木製玩具の導入/手触り・音・硬さ・色等の違いに気付く。
カプラと組み合わせてイメージを広げる。(積木・人形・動物・カタカタ等)
1月 戸外活動で改めて「木」を身近に感じ、気付きを大切にする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・散歩では自然に興味を持ち、木の実や葉を持ち帰れるよう入れ物を用意。
- ・手触り、香り、音等楽しめるよう各部屋にカプラを配置(増量)。
- ・カプラを広げるスペースの確保(FS/ホール)。完成見本写真を用意。
- ・保護者周知の為プロジェクト、スクリーンを準備。HPやお知らせで周知。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

散歩に行った際に、「木」に触れ、どんな感触なのか、どんなものが実るのかなど、探究活動を楽しんだ。その後、木製の玩具やカプラを提供すると、子どもたちが木でできていることに気づき、散歩の際に見た木とリンクさせる様子が見られた。カプラでは、初めは積み重ね方がわからず、すぐに飽きてしまう事もあったが、保育士と一緒に積み重ねてみることで、徐々に高く積み上げることができるようになり、現在は子ども達の身長よりも高いタワーを作ることが出来るようになった。季節が変わり、3月には桜の木の制作を行った。一人一人が作り上げた事で、散歩の際に桜の木を見つけると桜の木を子ども達から発見する様子も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

散歩先では、かくれんぼの際に木の後ろに隠れてみたり、木に実っているものを手にして観察してみたりした。様々な木に触れることで、違いを感じていた。桜の木を見に行った際には落ちていた花びらを拾って観察をしたり、他児や保育者と「きれいだね」「匂いはするかな?」と興味を惹かれている様子が見られた。制作を通して桜の木を知っていた分、より一層興味関心を持って眺める様子があった。カプラでは、カプラの匂いをかいで「いい匂いだね」と話す姿が見られた。自分たちで高く積み上げることを楽しんでおり、最近では子ども達のみで作り上げることが出来るようになった。保育士に「凄いね!」と褒められると、喜び、より一層意欲的に作る姿も見られる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

木製玩具に触れる前に、戸外で「木」に触れた事で、より一層興味関心が高まり、遊び込む姿が見られた。プリオでは、木でできている分、重さもあり、丁寧に扱おうとしている様子が見られ、「重たいよ」と子ども達同士で声を掛け合う姿もあった。また線路では、他児同士でどのように繋げるか言葉のやりとりを交わしながら遊んでおり、空間把握する力や、想像力が身についてきたように感じる。遊び方次第で、様々な遊びになる事を子どもたちから学んだ。